

文部科学省生涯学習政策局
総合的な放課後対策推進のための調査研究 委託事業

「多様な主体によるICTを活用した放課後活動の実施」 実施報告書（別冊）

平成20年2月

子どもメディアフォーラム運営協議会
インターネット活用実践研究会

■ 目 次

はじめに	5
1. 調査研究の概要	7
1.1 事業テーマ	8
1.2 事業実施の背景・必要性	8
1.3 モデル事業の実施内容・方法	9
1.4 利用したICT教材	10
2. 実施委員会の運営	13
2.1 委員名簿	14
2.2 実施協力機関	14
2.3 事業の実施経過	15
3. 事業実施地域からの声	17
3.1 特定非営利法人 こまき市民活動ネットワーク	18
3.2 愛媛県松山市立生石小学校	21
4. 事業実施地域の視察	25
4.1 千葉県松戸市相模台放課後児童クラブ（現地視察）	26
4.2 熊本県大津町立室小学校（現地視察）	30
4.3 岐阜県岐阜市茜部小学校（先進事例地域紹介）	33
5. 現地アンケート	37
5.1 アンケート内容	38
5.2 アンケート結果からの考察	40
6. おわりに	45

はじめに

はじめに

平成19年度文部科学省生涯学習政策局公募「総合的な放課後対策推進の為の調査研究」におきまして「多様な主体によるICTを活用した放課後活動の実施」を検討テーマとし、ICTを活用することで、多様な主体者による運営が考えられる放課後子どもプランにおける活動について容易に放課後活動を始めることができるのでは、という仮説を立てモデル事業を実施してまいりました。

モデル事業の過程では、地域のボランティア等の主体が学校において放課後活動を行う場合の継続性に大きな難しさがあることが分かり、特に、運営主体者、及び子どもたちのモチベーション向上策も大切なファクターであることも分かり、地域ぐるみで組織化、施策化することにより学校での有効的な活用につながるのではないかとということが見えてまいりました。

ICTを活用することで、間違いなく容易に放課後活動を行える下地が出来ることは実感することができましたが、それは、単にICTを放課後の現場に入れるのではなく、ICTを子どもたち同士、子どもと大人をつなぐ道具として利用することが、モチベーション向上と事業を継続させることに気がきました。

なお、本調査研究に際し、ご尽力賜りました委員会の先生方、ならびに、協力地域としてアンケート調査や視察にご協力いただきました教育委員会、学校教職員、地域のボランティア組織の皆様など、この場をおかりして御礼申し上げます。

1

調査事業の概要

1.1 検討テーマ

『多様な主体によるICTを活用した放課後活動の実施』

放課後ならではの多様なボランティア（保護者、地域の大人、退職後のシルバー層、学生、及び企業人）が講師となり、子どもたちに昨今必要とされている生活における安全に関する知識や、確かな学力を補完するような教室を、ICTを活用することで容易に行うモデルを実施することしました。

1.2 事業実施の背景・必要性

近年は高度情報通信社会と言われ、子どもたちの周囲には様々な情報が氾濫している。それら情報は子どもたちにとって有益なものばかりではなく、犯罪や問題行動につながるようなものも多く存在する。これらの情報環境を安全・安心に利用するには、子どもたちはそれらに応じた知識を身に付けるとともに、自身で情報の善悪や危険の判断し自分たちの身は自分たちで守れるようになる必要がある。その取り組みは、学校や家庭だけでなく、様々な立場の人が存在する地域社会と相互に連携し協力し合うことで、より効果的なものになると考える。

当該団体では、平成16～18年度の「地域子ども教室推進事業」において、558箇所で行った生活における安全・安心の知識の体得と活用方法を体験する『子どもの居場所づくり』を実施した。過去3年間の実績から子どもたちが必要な知識を体得し活用できるようになるためには、「疑似体験（バーチャル）」 「実体験（リアル）」というステップで行うことが非常に効果的であることが分かったが、子どもたちに疑似体験を行ってもらうことは、その準備も含め放課後子どもプランでの主体となるボランティアにはハードル高いことも分かった。そのハードルを克服するツールとして、ICTを活用した電子教材を利用することで、誰もが容易に実施できる環境を整えていく必要があると考えている。

また、過去3年間の活動において、学習の機会の提供を訴える声が保護者からの一番多い声であった。ただ、試験的にそれらの声に答える教室を行ったが、以下の3点の課題があった。

- 1．学習させる教材の準備がボランティアの大きな負担となった
- 2．教員ではないボランティアでは、多くの子ども達に行き届いた指導ができなかった
- 3．学年も能力も違う子どもたちが集まっていた為、進度に応じた対応ができなかった

これらの課題についても、子どもたちが自ら学習内容や学習量を決定できるセルフペース学習を可能とするICT教材を活用することで、教えるプロではないボランティアが教室を実施していくことが可能になると考えている。

本事業を通じて、ICT活用により多様なボランティアが、子どもたちの学びの場の交流を促進させ、地域と地域の間「学びあい」「教えあう」場を実現することが可能であり、諸問題解決の一助になるのではと考えられることから、本事業を実施することとした。

1.3 モデル事業の実施内容・方法

研究協力機関と連携し、都市部、地方都市、過疎地域の3つの区分にて放課後子どもプランを実施した場合の効果的な方法を探る。また、各地域でNPO法人職員、保護者、地域の大人、シルバー層、教員、役所職員、大学生、企業人、と多様なボランティアによつての効果的な実施方法についても実証していくこととする。

<調査研究実施エリアについて>

都道府県	市町村/開催場所
愛媛県	松山市/生石小学校
愛知県	小牧市/桃陵中学校
石川県	七尾市/田鶴浜公民館
新潟県	十日町市/水沢小学校
宮崎県	宮崎市/学園木花台小学校
和歌山	和歌山市/楠見東小学校
東京都	八丈町/末吉小学校
東京都	杉並区/和田小学校
千葉県	松戸市/相模台放課後児童クラブ
東京都	杉並区/杉並第一小学校
熊本県	大津町/NPOこどもサポート・みんなのおうち
鹿児島県	薩摩川内市/黒木わいわいクラブ
宮城県	本吉町/津谷小学校
神奈川県	横須賀市/小原台小学校
福岡県	北九州市/永犬丸西小学校

教室の内容としては、当該団体で平成16年度～18年度にかけて全国558カ所での経験を踏まえ、ボランティアがICTを活用することで、以下の2つの教室を実施していく。

放課後安全教室

インターネットの安全（情報モラル）、生活の安全（防犯）食の安全（食育）について、ICT教材を利用した疑似体験とボランティアとのコミュニケーションによる実体験を交え、安全に対する知識と判断力を体得する教室

放課後学習教室

子どもたちが自ら学習内容や学習量を決定できるセルフペース学習を可能とするICT教材を活用することで、多様なボランティアでも簡易に学習指導ができ、子どもたちそれぞれに適した日々の学習の補完を行う教室

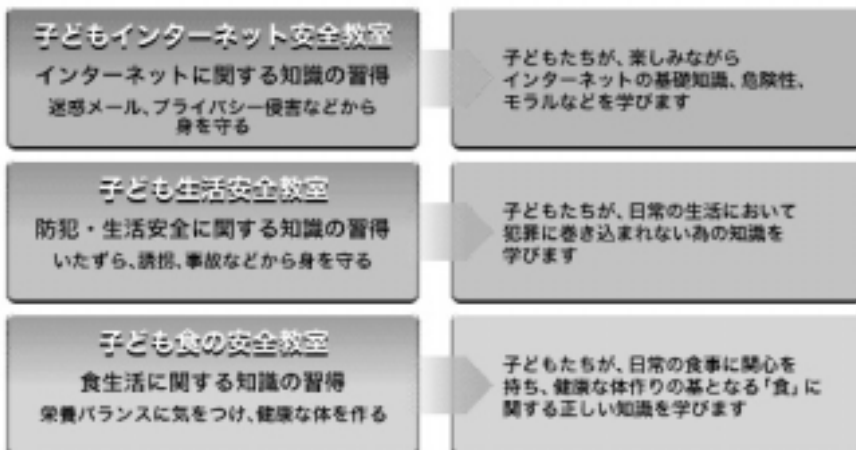
1.4 利用したICT教材

第1回委員会において、本モデル事業においては、平成16年から18年の地域子ども教室推進事業にて弊団体が活動してきたノウハウを活かすことが重要であると考えられたことから、同活動で多くの実績がある、NTTコムチェオ社の「ドットコムキッズ」をICT教材に採用することとした。

【ドットコムキッズ紹介】



<安全編>



< 学習編 >



学力の向上



子どもたちが、自分の理解にあったプリントを活用して、自ら学習する力を養います

子どもたちに

- ★自主学習用のプリント教材
- ★プリントについているバーコードで操作が簡単
- ★問題につまづいた時は、画像・音声付きのマルチメディア解説でたのしく学習
- ★充実したトレーニングプリントで、飽きずに効果的な反復練習が可能
- ★自己採点方式で「自ら学習する意欲」を喚起
- ★学習結果が目に見えるため、児童の自信につながります

指導される方に

- ★個々の児童の理解にあわせたプリントをPCでラクラク出力
- ★小テスト、確認テストなどオリジナルプリントを瞬時に作成

2 | 実施委員会の運営

2.1 実施委員会

氏名	職名	当事業における担当内容
山本 恒夫	筑波大学 名誉教授	プロジェクトに対する助言
浅井 経子	八洲学園大学 教授	プロジェクトの取り纏め
高橋 時市郎	東京電機大学 教授	カリキュラムに応じたICT機器等の調査研究
野田 松太郎	愛媛大学 名誉教授	研究実践協力地域コーディネート
出口 美紀	NPO法人 こまき市民活動 ネットワーク 副代表	研究実践協力地域コーディネート
金澤 裕蔵	天草市行政区長 天草市環境審議会 委員	研究実践協力地域コーディネート
鈴木 武人	NTTコミュニケーションズ(株) 担当部長	教材研究、調査取り纏め

2.2 実施協力機関

機関名	機関の所在地	当事業における担当内容
小牧市教育委員会	愛知県小牧市	研究協力校（地方都市）
松山市教育委員会	愛媛県松山市	研究協力校（中核都市）
七尾市教育委員会	石川県七尾市	研究協力地（地方都市）
十日町市教育委員会	新潟県十日町	研究協力地（過疎地域）
宮崎市立教育委員会	宮城県宮崎市	研究協力校（中核都市）
和歌山市教育委員会	和歌山県和歌山市	研究協力校（中核都市）
八丈町教育委員会	東京都八丈町	研究協力地（過疎地域）
杉並区教育委員会	東京都杉並区	研究協力地（都市部）
松戸市教育委員会	千葉県松戸市	研究協力地（地方都市）
大津町教育委員会	熊本県大津市	研究協力地（過疎地域）
薩摩川内市教育委員会	鹿児島県薩摩川内市	研究協力地（過疎地域）
末吉町教育委員会	宮城県末吉町	研究協力地（過疎地域）
横須賀市教育委員会	神奈川県横須賀市	研究協力地（都市部）
北九州市教育委員会	福岡県北九州市	研究協力校（中核都市）
東京電機大学	東京都千代田区	教材研究
NTTコムチェオ(株)	東京都港区	教材研究
NTTコミュニケーションズ(株)	東京都千代田区	調査・研究実施、事務局
全国視聴覚教育連盟	東京都港区	事務局

2.3 実施の実施経過

実施時期	実施内容
2007年 9月上旬	研究委員会メンバーの確定
9月中旬 ～10月下旬	事務局にて、調査研究協力地区候補への協力依頼の実施
10月～	調査協力地域にて、順次教室の開催を実施。事務局によるセットアップの実施
11月28日	第一回研究委員会開催（研究協力地、時期、カリキュラム、評価方法を審議）
2008年 1月上旬	事務局にて、アンケートの設計 （対象：コーディネータ、指導員、保護者、参加児童）
1月中旬 ～2月中旬	調査・研究用アンケートの実施 （対象：コーディネータ、指導員、保護者、参加児童）
2月中旬	調査・研究結果を元に報告書の作成
2月28日	第二回研究委員会開催（報告書内容、事業の考察、今後の展開を審議）

3 | 事業実施地域からの声

3.1 特定非営利法人 こまき市民活動ネットワーク（愛知県小牧市）

実施場所	愛知県小牧市
実践主体	特定非営利法人 こまき市民活動ネットワーク
執筆者	特定非営利法人 こまき市民活動ネットワーク 副代表理事 出口 美紀

～ICTを活用した放課後活動を行ってみて～

私の住む愛知県小牧市の桃花台ニュータウンは、30年ほど前に開発されたベットタウンで、子どもの通う小学校は開校10年で全校生徒1100人を上回る愛知県下で1番のマンモス校となりました。空港、自衛隊基地、大手企業の工場が近くにある為、親の出身地もまちまちで、しかも工場に働きに来ている外国人居住者も多く、「寄せ集まり」の地域です。そのため親同士の近所付き合いも気薄な感じでした。しかし学校の設備は恵まれ2000年には液晶デスクトップのパソコンが全47台あるコンピュータールームが2部屋、各クラスや職員室などの全教室のパソコンがLANケーブルでつながり、インターネット環境はいち早く整備され、子どもたちも1年生の授業からパソコンに関わる内容になっていました。また各家庭でのパソコンの普及率も近隣の地域より圧倒的に高く、学校の緊急連絡もメールで配信されるようになりました。反面、父親、母親のスキルが伴わず、また、誰に相談したらいいのか、又、子どもの方がよくわかっていてどこを規制していいのかさえ判断がつかないとの声を多く聞きました。そんな中5年前、PTAサークルとして『大城パソコン倶楽部』を結成しました。パソコンのスキルアップでなく親同士のコミュニケーションの場と「PCを使って何が出来るか」と「一人の失敗はみんなの学び」としてインターネットを通じて人的ネットの構築を計ってきました。

最初は、当時は時間によってインターネットの料金が課金されるアナログ接続が主流だったため、容量によって料金が変わることとか、メールを送る時のマナーなどを話し合ったりしていました。また、当時早稲田大学の学生で「IT革命」で流行語大賞を受賞したIT会社社長の木下斉さんを招いて講演会を開いたり、ワードで画像を貼り付けて「コラージュ」作品を作り、養護の先生に心理的描写のセミナーを開いたりもしました。3年前の佐世保での事件の後、問題視された掲示板について子どもたちと話し合いたいとの声に「寝た子を起こすのも・・・」という声もきかれました。「インターネットの中でも、ちゃんとマナーとルールがあることを身につかせるにはどうしたらいいんだろう」と考えていました。





知人の紹介で「子どもメディアフォーラム」の事業を聞き、子どもたちと一緒にネチケットが学べるソフトに感激し参加を申し出ました。スタッフも他校の同じ視点を持った人たちに声をかけ「E場所メディア塾」を結成しました。11名のスタッフに小3から中2までの個性豊かな子どもたち26名が集まりました。年齢差も興味も異なる子どもたちをどう束ねていくかが毎回重要な課題でした。1回2時間の講座ですっと黙ってデスクトップに向かっていることのないよう工夫を凝らしました。

「今日はね、みんなにクリスマスカードを作ってもらいたいんだ～ワードのオートシェイプの や を使ってサンタさんの顔にしてみよう」と、投げかけます。

花柄の洋服を着たサンタさんもいれば、髭のないサンタさんも出来ました。ひとつひとつパーツをはさみで切り抜き、のりで張り合わせ、カードが出来上がります。「このカードをね、 さん(スタッフ)がヨン様に送りたいって言うんだ～韓国に国際郵便で送るには切手はいくらかかって何日かかるのかなぁ？」子どもたちはインターネットで検索を始めます。ひとりの子が「国際郵便って検索したら郵便局(正しくは郵政省)のホームページが出てきたよ」と声を上げると他の子も習ってページを見ます。「へえ～こうやって調べるんだね～すごいなぁ～私だったら郵便局の人に電話で聞いちゃうな・・・」とスタッフの声。もう子どもも大人も関係なく出来るひとから学びます。

ある時は、携帯電話の会社をお願いして携帯電話機を貸していただき、グループで学校内を走り回って事前にスタッフが各所に張り紙にあるキーワードを携帯のトランシーバー機能を使って教室に残っているスタッフに伝えるゲームをしました。子どもたちは新しい携帯電話を意とも簡単に使いこなしてしまいます。それには大人のスタッフのほうが驚きました。ゲームが終わった後、みんなで携帯電話について話し合いました。お母さんたちが「こう使ってほしい」との思いと、子どもたちの「この機能が使いたい」という思いが



違っていることがわかりました。そして最後に電話会社のひとに、電話料金の説明を聞きました。自分が使いたい機能がいくらかかるか、子どもでもちゃんと納得したいことがわかりました。

子どもたちの中には、自閉症、アスペルガー症候群、場面カン黙と、普段の学校生活に心配な子がいました。それが後からわかったくらい、この「居場所」においては他の子との差を感じていませんでした。それは、もともと年齢差がないように内容を工夫したこと、会話以外に ×カードを使ったり、記号を使ったりといろんな方法でコミュニケーションを行っていたからでした。講座が終了した後、親御さんから「学校の教室以外で出掛ける場所が初めて見つかった」「知らない人たちと交えることが出来ました」と言っていただけで、改めてインターネット、パソコンというツールが素晴らしいものなのかを実感しました。

また、スタッフが自ら失敗談を話し、「大人でもこんな経験してるんだよ、心配なことがあったらひとりで悩まないで相談してね」と声をかけます。インターネットの危険性を学びながらもインターネットの楽しさをみんなで分かち合うことで、子どもも大人も一緒に学びあう場所となりました。そして更に、私たちの目標は「PCを通じて何でも話せる近所のオバサン」になることであり、近い将来は、子どもたちが私たちに教えてくれることとなるでしょう。

3.2 愛媛県松山市立生石小学校（愛媛県松山市）

実施場所	愛媛県松山市立生石小学校
実践主体	愛媛大学学生ボランティア（松山市教育委員会）
執筆者	松山市立生石小学校 校長 立石 康

～自分に宿題を出す？成績がUPするナゾの算数学習教室～

松山市生石小学校では、本年6月より大学生ボランティアによる協力の下、個別学習用のICT教材「ドットコムキッズ」を活用した土曜算数教室を行っている。「ドットコムキッズ」は生徒達自身の学習進捗に応じた問題がPCを通じて自動選択される様になっており、またその問題が解けない際は大学生ボランティアが生徒を個別指導するなどフォロー体制も充実している。こうした仕組みが生徒のみならず教師の間でも『教える方法』について再考を促す好影響を生み出している。以下、その効果について教師間の会話の一部抜粋にてお伝えしたい。

<職員室放課後、先生方の対話から>

A夫先生：今まで学習したことをテストしてみたが、よく出来ている子ともしっかり努力しなければならぬ子の差を感じるな。特に中学年でがんばらせないとますます差がつきそうな気がするね。でもね、この太郎君と花子さんは、この頃よく頑張っているよね。塾でも行き始めたのだろうか。それとも家庭教師でもつけ始めたのだろうか。ちょっと不思議だ。いつか理由を聞いてみたいが…プライバシーのこともあるしね。

B子先生：あら！太郎君と花子さん、やはり成績上げてきた？先生知らない。？

A夫先生：それどういう意味？？もう少し詳しくいってよ。指導の参考になるからね。

B子先生：この二人、算数教室に参加しているのよ。6月から土曜日の朝、なかよし教室で開催し始めた、地域ボランティアによる算数教室よ。

A夫先生：あの算数教室に参加しているのですか？



算数教室が、11月1日からスタートして大反響を呼びます。好評を受けているが、松山市立生石小学校から近隣の小学校や公民館まで広げて開催します。学習の進捗に合わせて問題が自動選択される「ドットコムキッズ」を活用した個別学習教材「ドットコムキッズ」を導入し、土曜日の朝、地域ボランティアによる算数教室を開催します。参加者募集のお知らせです。

主催：松山市立生石小学校（校長 立石 康）
 協賛：松山市教育委員会
 協賛：松山市立生石小学校
 協賛：松山市立生石小学校
 協賛：松山市立生石小学校
 協賛：松山市立生石小学校

お問い合わせ先
 松山市立生石小学校 校長 立石 康 TEL: 871-0875

申込書

氏名	学年	性別
住所	〒	
電話番号		



B子先生：そうよ、5月末に募集したじゃない。「算数の苦手なひといらっしやい」というパンフレットが配られたのをみて、それに応募したのよ。昨年12月に県下で初めて本校に導入された自主自立学習システム（1）ですが、今年度も継続してやってほしいという保護者の希望で、今学期も始めた教室ですよ。

A夫先生：なぜ、この算数教室が人気あるのだろうね。本当に学力ついているのだろうか。教師が、毎日毎日一生懸命授業しているのとが違うのかね。

校長先生：いいところに気がついたね。ここに気がつけばA夫先生の学級の児童は算数の学力はもっと伸びるね。私が土曜日に参加し気がついた学校での授業との違いを5つにまとめてみるとね。次のようなことになったね。

全く個別学習であること。

パソコンは使うが、パソコンは自分にあつた問題を検索するための道具にしか過ぎない。プリンタから出力される問題はアナログシートだよ。

この教室に入会するとき、事前に「自分が分からないことは、どの単元のどの部分か。」「図形とか量とか低学年であれば時計とか、どの部分が苦手でもう一度復習したいのか。」など自分が教室でスタートする問題の位置学習カードに明確に記入するまでパソコンを使わないこと。自己診断の場面が徹底していると感じたね。

児童は学習し始めても、つまずけば、優しい大学生のお兄さんやお姉さんが、わかるまで丁寧に教えてくれるので、個別学習でありながら人間とパソコンがその児童を支援しているという感じだね。ヒューマンリレーションだね。ここが児童に受け入れられているので、一生懸命学習出来る環境



だと感じたね。

それにびっくりしたことがあるよ。ほとんどの子が自分に宿題出すのだ。普通では考えられないと思うが、一単位45分間の学習の最後では、次週来る時まで、家庭で学習しておきたい発展学習は、まだ習っていない単元の予習などプリントにして持ってかえるわけだね。「みんなちがってみんなOK」という努力学習UPのシステムね。この学習方法は、日本国が求めている「基礎学力UP、確かな学力向上」の一つの方策として有効だね。

A夫先生：校長先生、ナゾが解けました。太郎君と花子さんを今後注視して見ていきます。この雰囲気は参加していない児童には実感できないような気がします。

校長先生：だから教師は、どのような視点で授業を実践しなければならないか考えなければならない時代ですね。花子さんなんかすごい量の学習ファイルを持っていたよ。おや、なかよし教室（2）が地域開放教室としてリニューアルしたのを待っていたかのように、PTA学習ボランティアの方が算数教室の募集用紙（3）を持ってきたよ。



4

事業実施進実施地域の視察

4.1 千葉県松戸市相模台放課後児童クラブ（現地視察、意見交換会）

会議名	事業実践地域の視察（松戸市相模台放課後児童クラブ）
開催年月日	2008年2月21日(木) 15:45～17:30（視察時間含む）
開催場所	相模台放課後児童クラブ（千葉県松戸市）
記録者名	事務局：稲田 友
出席者	（社会福祉法人平和保育園 相模台放課後児童クラブ） 宮越事務長 （実施委員） 浅井 経子（八洲大学教授） 野田 松太郎（愛媛大学名誉教授） （事務局） 上草 憲昭、森本 梓、稲田 友

【宮越事務長】

お忙しい中、相模台放課後児童クラブにお越し頂き、ありがとうございます。
本日はよろしく願いいたします。

【事務局】

最初に、相模台放課後児童クラブの概要などについてお聞かせください。

【宮越事務長】

当児童クラブは、社会福祉法人平和保育園が主体となって行っている児童クラブです。元々はこの施設を利用し、地域の父母会有志にて運営されていたものです。松戸市からの依頼を受け、4年前から当社会福祉法人にて運営されております。

【浅井委員】

保育園が主体ということは、児童だけではなく就学前の子どももいらっしゃるのでしょうか。

【宮越事務長】

隣に保育園がありまして、この施設には児童だけです。

【野田委員】

児童は何名いらして、職員の方は何名いらっしゃるのでしょうか。

【宮越事務長】

児童数は約80名です。職員は常勤2名、非常勤5名の体制で、常時4～5名がいる状態です。

【浅井委員】

比較的多い人数で対応されていらっしゃるのですね。

【宮越事務長】

おそらく多い方だと思います。松戸市では小学校の数が44ありまして、当施設のような児童クラブが40あります。ほとんどがNPO法人などで運営されており、当施設のように社会福祉法人にて運営されているのは3つだけの状態です。

【野田委員】

パンフレットを見る限り、高学年の児童も受け入れているように見受けられます。



【宮越事務長】

多くの所では3年生までと決まっていると
ところが多いかと思えます。松戸市でも原則3
年生までとしているのですが、保護者の方の
要望などをお聞きし、対応させて頂いている
状態です。

【浅井委員】

全学年児童が対象ということは、放課後子
ども教室推進事業の枠組みで運営されている
のでしょうか。

【宮越事務長】

当施設は厚生労働省の放課後児童健全育成
事業の枠組みにて運営されています。児童も
登録制でして、全ての児童を対象にしている
状況ではありません。

【浅井委員】

登録制ということは、有料で児童を預かっ
ているということですか。

【宮越事務長】

有料になります。松戸市で決められた一律
の金額にて行っております。

【浅井委員】

放課後子どもプランとして、放課後子ども教
室推進事業と放課後児童健全育成事業の連携
を促しているが、どのようにお考えでしょうか。

【宮越事務長】

個々で事情は違うと思いますが、なかなか難
しい面が多いと思えます。放課後子ども教室
推進事業については、退職された教員への対
策という側面もあるように感じています。幼
稚園と保育園の一元化、幼保一元化と同じ面
があり、難しく感じています。

【浅井委員】

放課後子ども教室推進事業については、ど
う感じていますか。

【宮越事務長】

安全面について、若干心配な面があるよう
に感じられます。当施設は職員を雇う上で面
接を行い、指導もしています。放課後子ども
教室推進事業のベースはボランティアの方々
が主体になってくることとなっていますので、
子どもを預かる身としては、大丈夫なのか
という気がしている。当施設では、たとえ



大人、例えば退職した職員であってもきちんと出入りを制限しています。

【野田委員】

子どもたちは自由に出入りできるのでしょうか。

【宮越事務長】

保育終了時間まで、原則この施設内にいてもらうことになっています。制限をかけられるので、自由がなくなって楽しみが減ってしまう子どももいるかと思えます。ただ、安全面に関して責任をもって対応しています。

【野田委員】

ただ、友達もたくさんいるので、それが楽しさになると思います。また、将来にもそういった集団での活動が糧になると思います。

【宮越事務長】

そうであれば、すごくうれしいですね。

【事務局】

今回のICTの活用については、どのように使われているのでしょうか。

【宮越事務長】

パソコン、プリンタ、バーコードリーダー、それとプリントを打ち出すドットコムキッズという教材を使って、勉強をしています。

【浅井委員】

子どもたちがみんなで行っているのでしょうか。

【宮越事務長】

遊びたい子は遊び、勉強がしたい子はこの教材を使って勉強をしている状態です。

【浅井委員】

勉強したい子もちゃんと居るのですね。

【宮越事務長】

かえってそちらに飢えている子もいます。勿論、宿題も嫌な勉強が嫌いな子も多いですが、そこはかえってICTが良い面を出しています。我々で問題を作る手間もありませんし、子どもたちもモチベーションに繋がっています。実際にそろそろ時間ですので、状況をご覧頂けたらと思います。



- - - - ICTを活用した学習活動について、1時間ほど視察を行う - - - -

【宮越事務長】

なかなか騒がしかったと思いますが、いかがでしたでしょうか。

【浅井委員】

プリンタの前で行列が出来ていて、子どもたちが意欲的でびっくりです。

【宮越事務長】

その点は、ICTの良い面、効果的な面だと思います。バーコードリーダーを使って自分で問題を打ち出すことで、大きなモチベーション向上に繋がっています。

【野田委員】

プリントに自分の名前が書かれるところもそれに拍車をかけていますね。

【宮越事務長】

そうですね。事前に子どもたちの名前を登録しておけば、ある意味その子の為のプリントが出てきます。

【浅井委員】

指導員の方が丸つけをしているので、そのコミュニケーションも良いのだと思います。

【宮越事務長】

ICTだけではなく、指導員が関わることもかえってモチベーションの向上になっているのだと思います。

【野田委員】

児童クラブの現場に良いプラスになっているように思いました。

【宮越事務長】

児童クラブとしては、日中仕事などで保護者が家にいない子どもを預かることが第一ですが、今はその預かっている時間の質も求められています。学習をしたい子どもたちにとって、また指導員にとってもICTを活用することでそれがより容易に行えるのだと実感しました。

【事務局】

本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

- 以上 -

4.2 千葉県松戸市相模台放課後児童クラブ（現地視察、意見交換会）

会議名	事業実践地域の視察（大津町立室小学校）
開催年月日	2008年2月22日（金）13：30～16：30（視察時間含む）
開催場所	大津町立室小学校内コスモキッズクラブ（熊本県大津町）
記録者名	事務局：稲田 友
出席者	（NPO法人こどもサポート・みんなのおうち） 佐藤事務局長、清島指導員、世良指導員 （実施委員） 出口 美紀（NPO法人こまき市民活動ネットワーク 副代表理事） （事務局） 矢野 雅教、鈴木 実、小池 一成

【事務局】

本日はお忙しい中お時間を頂き、ありがとうございます。

それでは早速実際にドットコムキッズを使ってみての感想など率直なご意見を頂戴出来ればと思います。

【世良指導員】

算数と国語で若干システムの使い方が違うのにもかかわらず、大人が思うよりも子どもたちは自由に使いこなしている。

やはりバーコードを使うことが興味を引いているようだ。

お買い物感覚、ゲーム感覚でぴっとやって楽しんで学習をしているように感じる。プリントアウトがされるまでの間、子どもたちが並んで待っているのが非常に印象的である。

日々のプリントだけでなく、級の判定やテストなどがあることで、子どもたちのなかで軽い競争意識が芽生えたようで、あの子には負けたくないといった感情もいい意味での芽生えもあったように感じる。

【清島指導員】

出力したプリントの保管に関しては、紙製のフ

ァイルを購入し、それぞれ個別で管理をしている。

どんどん厚くなる子どもも、薄いままの子どももいるが、強制はしていないのでこの結果は少々驚きである。

最初は3年生～6年生の子どもだけを対象にしていたが、1～2年生の子どもたちもやってみたく希望があったので、途中から参加させてみた。しかし名前の登録をしていなかったため、自分の名前が出てこないの、残念がっていた。

実際には低学年が時間的に先に帰ってきて長時間取り組みを実施しているが、高学年が取り組んでいる時間があまりなかったかもしれない。

【事務局】

従来児童クラブは生活の空間で楽しみといった生活が多かったかと思いますが今回の取り組みを通じて実際に勉強をやらされるという意識はなかったか。

【清島指導員】

子どもたちに強制はしなかったが、自主的に取り組んでいた。あくまで自分たちで自発的に実施をしていた。



【世良指導員】

今日習ったものなどを選択したり、今日の気分で国語を選んだり自由に取り組んでいた。英語なども誰かが始めるとPCの周りに食い入るように見つめていた。

【出口委員】

何よりもサポートしている皆さんが子どもたちにやらせているという意識がないのがいい環境を生み出しているのだと思う。保護者の反応はどうか？

【清島指導員】

親としては勉強をしていることに関して、いい反応を示すことが多い。

私たちは学校ではないので、楽しんで勉強をしているのであればかまわないと思う。最終的には継続をしていくことで力がついていくのではと思う、

【世良指導員】

子どもの宿題を見ていると、漢字の書き順が違っている。それをアニメーションなどで実施できればより望ましいと思う。

【事務局】

書き順に関しては対応済みなので後ほど改めて説明します。

【世良指導員】

了解した。

【清島指導員】

やはり子どもが飽きない仕組みがあれば、取り組み方も前向きになるように感じている。また、学校から離れたところで実施しているのがよい方向に働いているのではと感じている。

【出口委員】

今回の取り組みに関して、子どもの様子などを、先生へ橋渡しをしてあげること、子どものモチベーションが向上する場合もある。最後の評価は先生にしてもらうのがいいかもしれない。

【清島指導員】

評価の枠組みになるとNPOで実施するのは難しい。

【出口委員】

この場所での評価は必要ないのではと感じる。

評価されない人だからうれしかったり、話がしやすい部分もあると感じている。

今回の取り組みは究極のデジタルだと感じている部分もあるが、実はアナログのようなやり方になっているのが最終的にはいいのかもしれない。



【事務局】

指導員の方の負担になっていないか。

【清島指導員】

指導員の枠組みの中だけでは通常の活動と一緒に今回の取り組みを追加で管理をするのが難しい。今回の取り組みは自由に開放し、子どもだけががんばってというのは難しいと感じる。子どもの自主性に任せると、どうしても人手がたりないので、世良指導員に対応を頂いている。

学校の教え方があるので学習に関しては以前から宿題などで学校と連携をしていたので、丸付けなどの抵抗は無かった。

【事務局】

指導員として活動を行う場合にはどのような人材が適していると感じるか。

【清島指導員】

教員OBよりもそれ以外の人のほうがありがたい。どうしても教えてあげるという目線になりがち。一緒に学ぶという雰囲気ではなく子どもたちが構えてしまいがち。

【出口委員】

子どもは自分がどうやって伸びたのかはわかっている。この場所がきっかけになれるような活動に発展していくのではないか。

大人も一緒になって、子どもと一緒に目線で楽しさを分かち合うことで、学習システムも受け入れられているのではないか。

大事な事は学力をあげることが目的ではなく、あくまで活動の中のひとつの道具としてとらえる事にあると思う。

【清島指導員】

プリント以外のバリエーションなども加わるといいのかもしれない。

たとえば各自の到達度などによってご褒美があたりとか。

【出口委員】

地域通貨など自分のがんばったことが周りに還元されるなどの仕組みがあるといいのかもしれない。

インクに地域ベルマークなどつけて、インクをどんどん使ってプリントをやるとNPOに還元されるとか・・・

地域と深くかかわれる仕組みを構築できるといいのかもしれない。

【事務局】

本日はありがとうございました。

- 以上 -

4.3 岐阜県岐阜市立茜部小学校（先進実践地域紹介）

実践場所	岐阜県岐阜市立茜部小学校
------	--------------

岐阜県岐阜市の中央部、岐阜駅から車で15分のところに岐阜市立茜部小学校がある。近年、教員以外の外部講師やボランティアを数多く活用し、特色のある学校づくりを実践している。

放課後の子どもの居場所づくりとしては、昨年度から「インターネット子ども教室」を地域のボランティアが中心となって実施している。

この日行われていたのは、「子ども食の安全教室」。食品に含まれる栄養素を学び、バランスの良い献立を考える、という内容である。

講師となるボランティアの方々は、岐阜県の「ITボランティア講座」を受講した方々が中心となっており、約10名のメンバーで交代しながら行っている。参加する児童は4年生から6年生の約20名のコンピュータクラブの子どもたち。学年もクラスも違う子どもたちが集まっており、開始前のコンピュータ教室はざわついた雰囲気になっていた。

ボランティアメンバーの中心となっている畑中さんが子どもたちに「こんにちは！」と声をかけると子どもたちからも元気良く「こんにちは！」の声が出る。子どもたちからざわついた雰囲気はなくなり、畑中さんによる今日のボランティアメンバー紹介に耳を傾けている。日ごろからの子どもたちとの間に構築された信頼関係が伺えた。

<ボランティアメンバー・学校側へのヒアリング>

<参加者>

岐阜市立茜部小学校： 奥村校長、中田教諭

ボランティアの方々： 畑中さん、武藤さん、町頭さん、高橋さん、井上さん

事務局： 稲田 友

ボランティアメンバーの結成について

【事務局】

ボランティアメンバーのチーム結成はどういう形でされ、今後どうなさる予定でしょうか。

【奥村校長】

ITボランティア講座を受けられた皆さんに対し声をかけました。やはりチームになる前に手を挙げていただいた方は、最初は本当

に少なかった。畑中さんに「モデルケースとして」などと言って、2回くらいお願いをし、私たちコーディネータ側としては、畑中さんを核として、まずパターンを作っていた。そして、畑中さんを中心に「若草の会」のメンバーが加わり、非常に長い時間をかけて広がってきた。一気には広がらないです。これだけのメンバーがいると、チームワークを作るまでが、けっこう大変な部分はあると思います。



【畑中さん】

ITボランティア講座を受講した中で、仲良しグループが4人いたので「4人姉妹で若草物語みたいだね」ということから名づけた「若草の会」というグループを作ったことをきっかけとして、そこから話やすい人呼び込んできたのが始まりです。そんなときに、「(岐阜県教育財団の)上水流さんが人が集まらなくて困っている」という話を聞き、手を挙げてみました。最初は「みんなでやればいい」ということだったのですが、仕事に関しても、インターネット子ども教室のほうを優先してきたので、メインで活動をしています。私は、仕事は融通がきくので、メインで入らせていただいて、あとはアシスタント気分で入ってくださるという形で、今回に関しては、レジュメや流れはすべて私が作ってきました。

学校としての狙い、方向性について

【奥村校長】

今、学校の職員だけでなく、いろいろな面で、地域の方や専門の知識を持っている方に入っていただいて、学校の教育をしていくことが大事だと思っています。ぜひ今後も進

めていきたいと考えています。

昨年、「早寝早起き朝ごはん」ということが運動になりました。とにかく、今、「食」というのは、子どもたちが生活していく上でベースになる。朝ごはんも食わずに学校で勉強をさせようとしても、どうしても集中力が欠けます。食育は1～6年生まで系統的に学習していかなければならないことで、学校の栄養士と連携を図りながら、食育の大切さを学習させていくことが大事。特に、給食指導の中で、食育の大切さを扱っていくことを進めているところです。ただし、学校給食だけで子どもたちの食生活をカバーしていくことは無理ですし、家庭でいろいろな栄養素を摂るわけだから、保護者の方にいかに広げていくのかということが、とても大事だと思っています。

ボランティアが学校で活動していくにあたって

【事務局】

最近、よく「地域の教育力」ということが言われますが、学校サイドでこういうボランティア活動の人材は、なかなか使いにくいということはないですか。



【奥村校長】

そうですね。ですから、こういうボランティアのネットワークを持っていないと。まずは自分の地域の中から生み出すのが最初ですが、あとは県や市の担当の方と連携をよく図りながら、広めていくことだと思います。

【事務局】

県がうまくバックアップしていますね。

【奥村校長】

ただ、県が人材を作っても、その人材を使っていただけの窓口が市町村にあるか、という点があります。また、敏感な校長先生でないと、そこに参加していただけない。すると、いくら良いコンテンツやボランティアがいても、どこも使っていただけない。しかし、一方、学校には内在する問題として、ネットのモラル、食育、防犯等の問題がある。つまり、ニーズと教育が結びついていないところがある。茜部小学校のように価値を見出していたら、参加していただけるよう、県・市・学校の3つの連携が実は非常に大事だと思います。

【事務局】

今日は放課後の活動でした。学校としては、授業の一環という形でやる必要もあるのではないかという気がしますが、どうですか。

【奥村校長】

特に情報教育からいうと、今回は放課後活動であるが、学校の授業に入っていくには教育委員会を通さなければならず、その点で難しい。ただ、今は、まだ人材を派遣する形だが、地域で興味を持った方たちが研修会やPTAを対象とする講座にお使いいただくことによって、人材の資源をいろいろな形で使えると思います。

【事務局】

同じようなことを目指す人が増えることを願うのが良いと思います。

5 | 現地アンケート

<保護者向けアンケート>

アンケート基礎情報

市町村名		実施場所	
------	--	------	--

Q1. 今回の活動の満足度を教えてください

大変満足

やや満足

どちらでもない

やや不満

とても不満

Q2. (Q1にて「大変満足」「やや満足」を選ばれた方にお聞きします)

満足と感じた方はどこが良かったですか？

放課後、土日の活動場所ができたから

いつもと違う友達と活動することができたから

学校の授業では対応できない内容を受けられたきあら

(学習)(安全)に関する意識・興味が高まったから

その他()

Q3. 今後、同様の活動に子どもを参加させたいと考えますか？

是非参加させたい

やや参加させたい

どちらとも言えない

やや参加させたくない

絶参加させたくない

Q4. 皆さんが主体となって放課後活動を行うとしたら、何が障害になると考えられますか？

活動の時間がない

適当な教材がない

教える知識がない

参加するメリットが感じられない

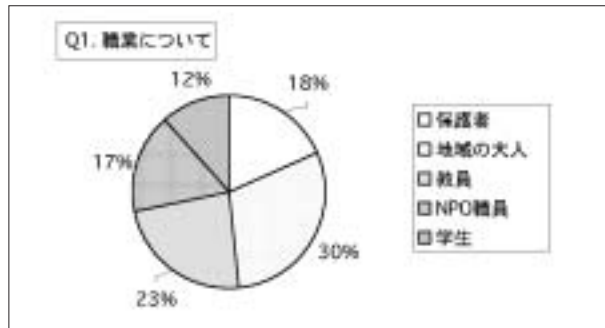
その他()

Q5. その他ご意見をお聞かせください。

5.2 アンケート結果からの考察

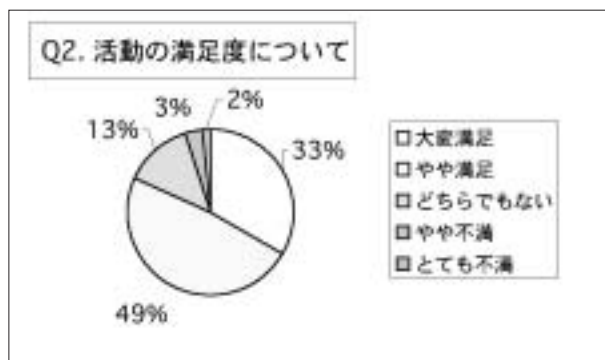
<実施主体向けアンケートについて>

Q1. 職業等をお聞かせください



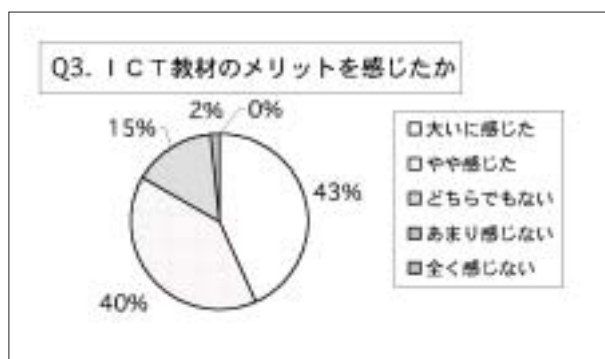
本事業については、「多様な主体」によるモデル事業を行うことに主眼を置きモデル事業を行ったことから、活動の実施主体者については、それぞれがほぼ均等になっている。

Q2. 今回の活動について満足度を教えてください



『大変満足』と『やや満足』が全体の82%を占め、かなり多い割合で実施主体者が満足感を得ていることが分かった。

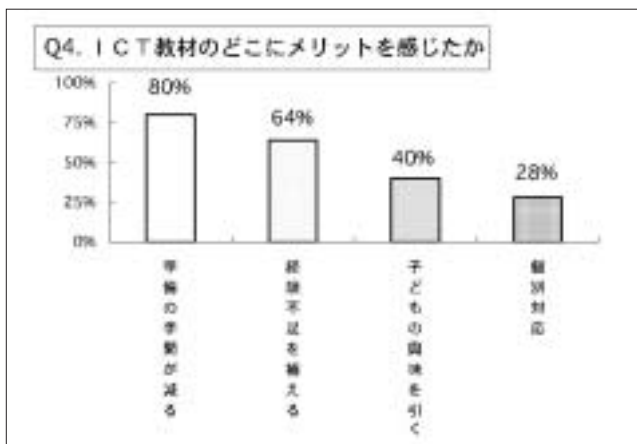
Q3. 放課後活動を行う上で、今回提供した教材(ICT)によるメリットを感じましたか?



『大いに感じた』と『やや感じた』人数が全体の83%を占め、かなり多い割合で実施主体者がICT教材のメリットを感じていることが分かった。

特に教員、NPO職員に関しては100%がメリットを感じたと答えており、普段放課後活動を行っている方々にとって、よりメリットが感じられていることが分かった。

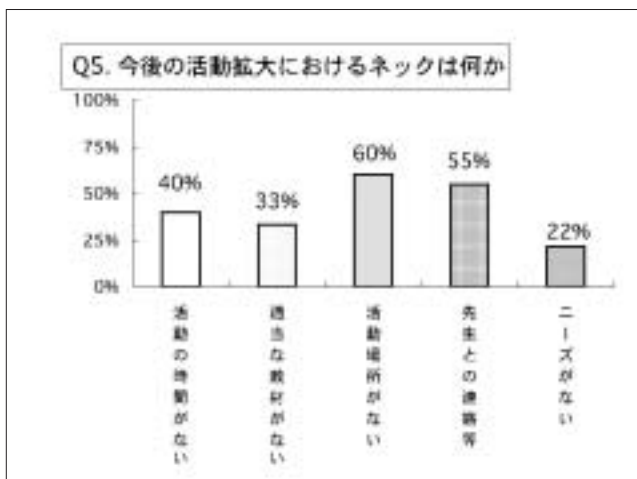
Q4 . どの部分にメリットを感じましたか？



約80%の方が教材の準備の手間が減ることを答えており、ICT教材が事前準備の時間削減に大きく寄与していることが分かった。

また、地域の大人、学生に関しては、ICT教材が経験不足を補えると答えており、未経験者が放課後活動を行う上でICT教材が大きな力になることが考えられる。

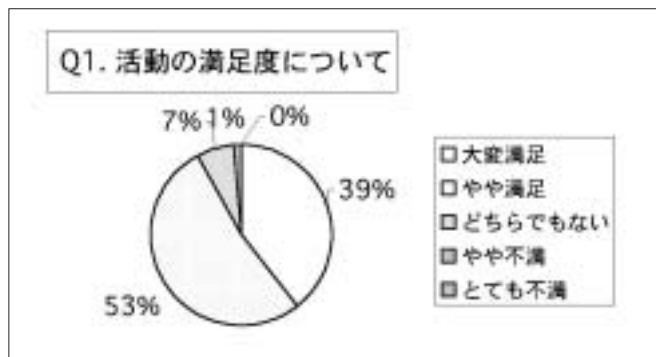
Q5 . 今後、放課後(土日含む)の子供の居場所を広げる上で、ネックになることは何だと感じますか？



活動する場所がないことが最も多い回答で、72%が活動拡大のネックになると答えている。「先生との連絡・調整」についても50%を超える方が答える結果となっており、すでに実施している方々にとっては、環境の整備が必要であることが分かった。

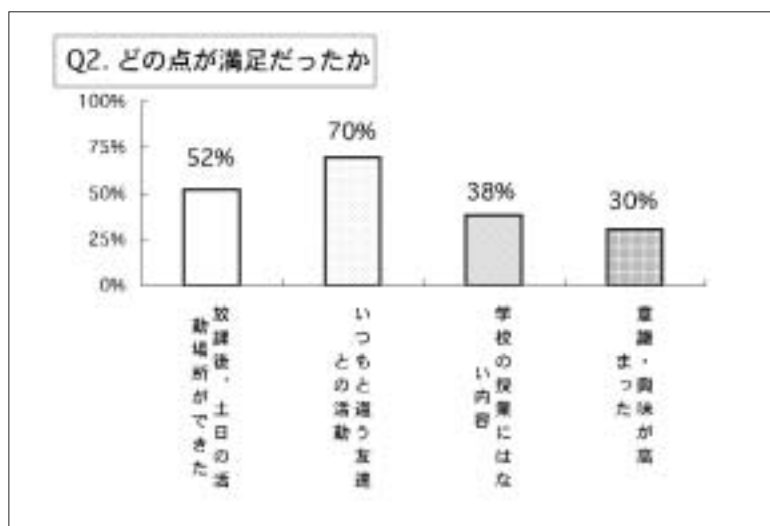
<保護者向けアンケートについて>

Q1. 今回の活動について満足度を教えてください。



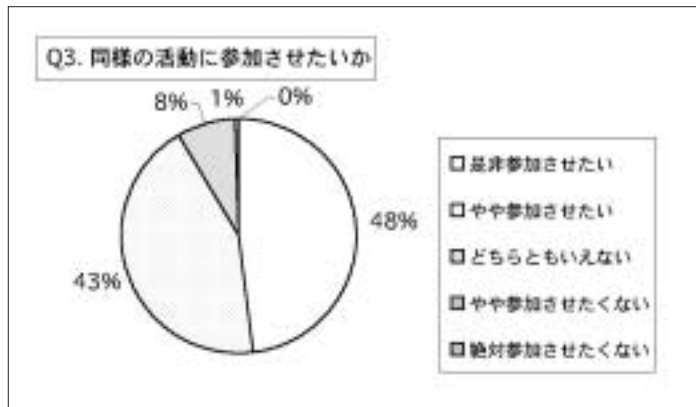
『大変満足』『やや満足』をした人の人数が全体の82%を占め、『あまり感じない』『全く感じない』はわずか1%と多くの保護者が本活動に満足感を感じていることが分かった。

Q2. 満足と感じた方はどこが良かったですか？



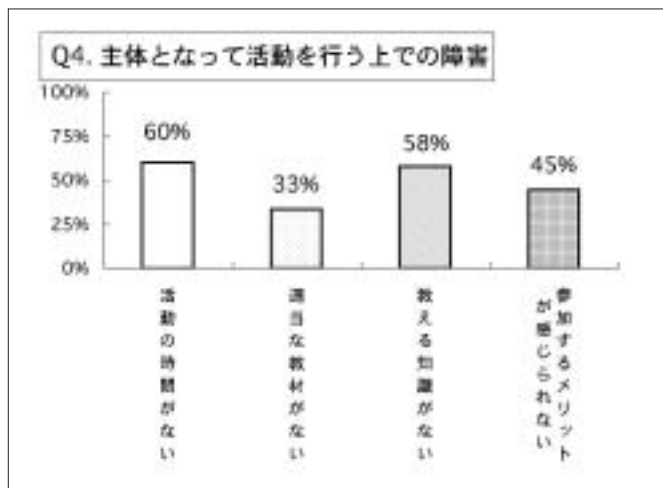
最も多い回答は、放課後活動ならではのいつもと違う友達との活動ができていること、ということとなった。通常の学校の授業とは違う体験ができる、ということに保護者は満足感を感じることが分かった。

Q3 . 今後、同様の活動に子どもを参加させたいと考えますか？



『是非参加させたい』『やや参加させたい』が全体の92%を占め、ほぼ全ての保護者が今後、同様な活動に参加させたい意思を持っていることが分かった。Q1の結果のとおり、82%が満足していると答えているのに対し、それ以上の保護者が今後も参加させたいと考えていることが分かった。

Q4 . 皆さんが主体となって放課後活動を行うとしたら、何が障害になると考えられますか？



『活動の時間がない』『教える知識がない』がほぼ同じ割合（約60%）となっており、時間と知識が活動を行う上での障害と考えられているということが分かった。

6 | おわりに

おわりに

本モデル事業を通じて、事業実践地域の声や視察した内容、アンケートの結果などから、「ICTを活用することで放課後の居場所づくりの活動を容易に行える」という仮説はある程度実証されました。

特に、実施主体向けアンケートの結果などから、地域の大人や学生など、教えることのプロではない方々から「ICTを活用することにメリットを感じる」との答えが非常に多く（90%以上）、これから同様の活動に参加しようとする方々にとっては、ICTが活動の大きな一助になることが分かりました。

しかしながら、単純にICT教材や機器を配備するだけでは、放課後活動拡大の障害を取り除ける訳ではないことも分かりました。

保護者向けに実施した「実際に実施主体となっていく上での障害は何か」の問いに対しては、『時間』と『経験』との答えが上位を占めており、特に『経験』については、一部ICTが補える部分もありますが、それ以上に今まで実践してきたノウハウの共有により、「経験不足を補える」と感じてもらうことが重要であることが分かりました。

また、事業実施現場に対するヒアリングを行った結果では、ICT教材の「質」についても意見が寄せられました。内容としては、過去にICT教材を使った放課後活動を行った時に、学校の授業用の教材が多く、放課後の現場には合いにくいという意見が多くありました。今回採用した「ドットコムキッズ」については、放課後向けに開発された、大人と子どものコミュニケーションが必要となる教材であったことから、現場からの高い評価を受けました。今後も同様に子どもだけがパソコンに向かうことで解決する教材では、なかなか放課後活動が拡大されない、ということが分かっています。

次年度以降においても、引き続き本事業に協力いただいた地域については、当団体に協力を行いながら、ICTを活用することでどのように放課後活動の課題解決ができるかについて、調査を行っていくことといたします。

文部科学省生涯学習政策局
総合的な放課後対策推進のための調査研究 委託事業

「多様な主体によるICTを活用した放課後活動の実施」
実施報告書（別冊）

平成20年2月

子どもメディアフォーラム運営協議会
インターネット活用実践研究会
